

今年「冷夏」が予想されています ～冷害対策の確認を～

冷夏、冷害と聞いて思い出すのは平成5年の大冷害です。このときは管内でも山間部を中心に大きな被害が出ました。現在、エルニーニョ現象が発生しており、長期予報でも梅雨入りは遅く、長引くのではないかとされています。

冷夏には「やませ」によるものと日本海側からの低温の風によるものの2種類があります。

冷害はこのどちらかの低温の影響により田植え以降長期間にわたる低温と少照により出穂期が遅れ、登熟が不十分となって減収する「遅延型冷害」と、幼穂形成期から出穂開花期における低温により、受精が阻害されておこる「障害型冷害」があります。

また、この両方が連続して起こる「混合型冷害」、いもち病の激発を伴った「いもち混合型冷害」などもあります。

◎対策 ～今年懸念されているのは障害型冷害です～

遅延型冷害対策として生育初期は保温のため昼間止め水とし、用水と水温の較差が最も小さくなる早朝にかん水を行いましょう。その後、止め水することで昼間の日射を水温、地温上昇に利用します。山間高冷地等の冷水灌漑地帯では、温水田・迂回路やポリチューブ等を利用し水温上昇に努めましよう。

障害型冷害対策として深水管理があります。日平均気温20℃以下の低温や最低気温が17℃を下回ると予想される場合は幼穂形成期（7月10～15日頃）は水深10cm、減数分裂期（出穂10日前）は水深15cm以上の深水管理を行い幼穂を低温から保護しましよう。

今年、梅雨が長引くと予想されていますので、溝切りを必ず実施しましよう。溝切りは水尻にしっかり繋げ、排水と湛水を容易にし、後々の水管理を楽にしてくれます。

冷夏にいもち病は付きものです。箱処理剤やオリゼメート散布だけに頼らずに、田んぼをしっかりと巡回し、病斑の早期発見早期防除に努めてください。



斑点米カメムシ防除は草刈りと薬剤防除を組み合わせる

斑点米カメムシ類はノビエやホタルイが好物です。これらが残草しているほ場はカメムシの巣窟となってしまいます。また、農道畦畔の雑草も併せて草刈りをして、繁殖地となる雑草の無いほ場を目指しましよう。

農道、畦畔の草刈りは出穂10～15日までに数回行います。

薬剤の残効のあるうちに田んぼに追いやって一網打尽！

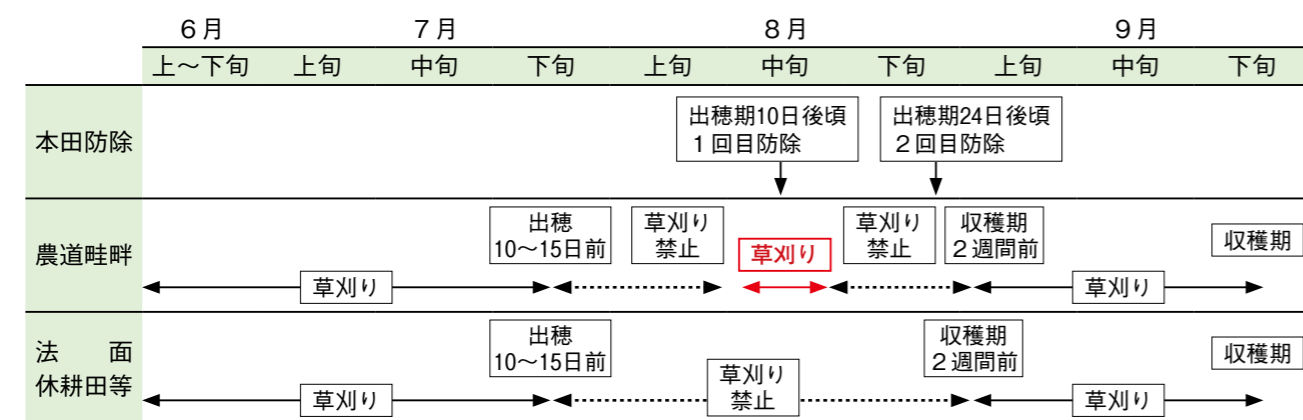


☆おばこ一斉草刈りデーは7月20日～26日です☆

【ポイント】

出穂期10日後頃の茎葉散布剤の散布後、5日以内に農道を含む畦畔の草刈りを行います。その後草刈りをする場合は、収穫2週間前以降に行います。

参考：本田防除と水田周辺の草刈り時期



平成27年6月発行

監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課

適切な水管理で基数確保 ～気象変動に対応した栽培管理を～

- ・今年度は4月中旬より最高気温の高い日が続き育苗期間中は高温による出芽不良などの被害のためまき直しを行ったところもありました。また、ハウス内の温度管理が難しく、もみ枯れ細菌病や苗立枯れ細菌病などの被害も散見されました。
- ・田植始期以降も天候の良い日が続き苗の活着もよく順調に生育しています。しかし5月下旬になると気温が急激に上がり終期に田植えを行ったほ場では高温による生育不良が心配されます。
- ・5月下旬から降水量が少なくなっており、今後水不足が懸念されますので、管内すべての地区で安定的な生産ができるようにご協力ください。

水稻定点調査結果（仙北地域振興局農業振興普及課より）

- ・6月10日現在の「あきたこまち」の生育は、草丈は24.1cmでやや短く（平年比98%）、茎数は130本/m²で少なく（平年比90%）、葉数は5.9葉で平年並（平年差-0.1葉）でした。
- ・定点ほの田植え日の平均は5月21日と平年並となりましたが、葉数から見た生育の遅れは2日程度となっています。5月5半旬以降、気温の高い日が続いており、生育は平年並となっています。

●平成27年産 作業進捗状況

	始 期 (5%)			盛 期 (50%)			終 期 (95%)		
	本 年	平年差	前年差	本 年	平年差	前年差	本 年	平年差	前年差
播 種	4月18日	早2日	早1日	4月23日	早1日	早3日	4月29日	早1日	早1日
耕 起	4月26日	早5日	±0日	5月3日	早4日	±0日	5月10日	早4日	±0日
田 植	5月15日	早3日	早2日	5月23日	早1日	早1日	5月30日	早1日	早1日

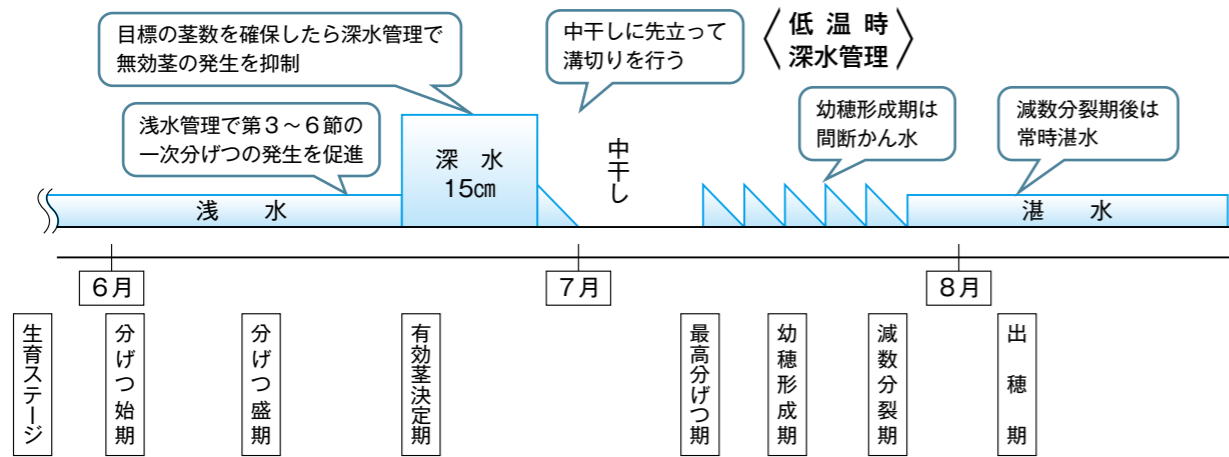
水田内に雑草が残った場合は中・後期除草剤で徹底防除

- ・今年、気温の高い日が続いたため雑草の生育が早まりました。またカナの発生により一発剤の散布が遅れるなどして雑草が残ってしまったほ場が多くあります。雑草が繁茂すると稲の生育不良や斑点米カメムシ類のすみかになってしまうため、残草してしまったほ場では中・後期剤を使用し徹底除草をしてください。

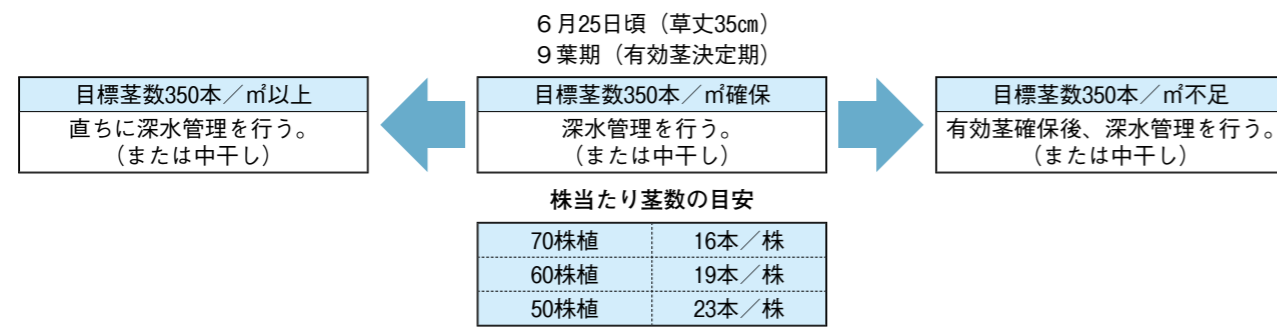
剤系	薬 剤 名	使 用 量 希 釈 水 量	本剤使用回数	使 用 時 期 方 法
ヒエ剤	クリンチャー1 [※] 粒剤	1 kg/10 a	2回以内	移植後7日～ノビエ4葉期 但し、収穫30日前まで湛水散布
		1.5 kg/10 a		移植後25日～ノビエ5葉期 但し、収穫30日前まで湛水散布
	クリンチャーEW	100ml/10 a 25～100%	2回以内	移植後20日～ノビエ6葉期 但し、収穫30日前まで落水散布（展着剤加用）
広葉剤	バサグラン粒剤	3 kg/10 a	1回	移植後15日～50日 但し、収穫60日前まで落水又は浅水状態で散布※スポット処理可能
	バサグラン液剤	500～700ml/10 a 70～100%	2回以内	移植後15日～50日 但し、収穫60日前まで落水又は浅水状態で散布※スポット処理可能
ヒエ・広葉混合剤	クリンチャーバスME液剤	100ml/10 a 70～100%	2回以内	移植後15日～ノビエ5葉期 但し、収穫50日前まで落水散布又は浅水状態で散布
	ヒエクリーンバサグラン粒剤	3 kg/10 a	1回	移植後15日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで浅水状態で散布
	ハイカット1 [※] 粒剤	1 kg/10 a	1回	移植後15日～ノビエ3.5葉期 但し、収穫60日前まで湛水散布 効果は遅効的
	アトトリ1 [※] 粒剤	1 kg/10 a	1回	移植後20日（イネ5葉期以降）～収穫45日前まで湛水散布 効果は遅効的
法面休耕田等	フォローアップ1 [※] 粒剤	1 kg/10 a	1回	移植後20日～ノビエ5葉期 但し、収穫60日前まで湛水散布 効果は遅効的
	ワイドアタックSC	100ml/10 a 100%	2回以内	移植後20日～ノビエ5葉期 但し、収穫30日前まで落水又は浅水状態で散布 効果は遅効的※スポット処理可能

※有効成分ごとの使用回数は農薬ラベル等で確認ください。

適切な水管理で有効茎歩合の高い丈夫なイネに育てましょう



- ・6月は浅水管理とし、水温と地温を高め日気温較差を大きくし有効茎となる第3～6節の一次分げつの発生を旺盛にし、早期に茎数を確保するよう努めましょう。かん水は水温の低い早朝に短時間で行います。
- ・低温湿地帯では温水田、迂回水路、ポリチューブ等を用いて積極的に水温上昇に努めましょう。
- ・浅水期間中の低温や強風時には深水にしてイネを保護しましょう。
- ・有効茎決定期（6月下旬）に、目標の茎数を確保したら、深水管理・中干しを実施します（7日～10日間）。



中干しの実施

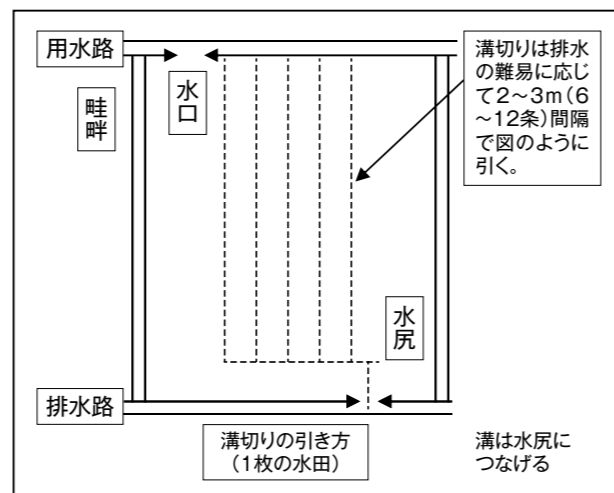
※今年は梅雨明けが遅いと予想されています。溝切りは7月以降の水管理に役立ちます!!

●中干しの目的と効果

- 1) この時期に落水することにより無効分げつを抑え茎数過多防止や葉を立て受光体勢を改善します。下位節間の伸長を抑え、倒伏しにくい稲に仕上げます。
- 2) 土壤中に酸素を供給し、還元状態で生成される有害成分（二価鉄、硫化水素、有機酸）を無毒化して、新たな根の伸長を促進し、後半まで活力を維持させます。
- 3) 機械作業に適した土壌硬度を確保します。この時期に一度しっかり干すことで、出穂30日後の落水でも容易に田面が硬くなり、刈取作業がスムーズに行えます。

●中干しのポイント

- 1) 中干しの実施期間は7～10日程度とし、幼穂形成期前には終了します。
- 2) 中干しの程度は、田面に1～2cm程度の亀裂が入り足跡が付く程度とします。
※中干しを強くしすぎると亀裂が大きくなり、根が切れ、生育に影響を及ぼします。
- 3) 中干し終了後は間断かん水とし、土壌を酸化的な条件に保ち根の伸長を促進させます。
- 4) 排水不良田や田面の高低差があるほ場では溝切りは必須です。



丈夫なイネづくりにもうひと手間

稲はチッソ、リン酸、カリ以外にもケイ酸や苦土なども土壌から吸収しています。特にケイ酸肥料を施用することにより稲体が丈夫になり葉が直立し受光体勢がよくなります。このため、少照時でも効率的に太陽光を吸収することができます。

また、ケイ酸は高温時にも葉温の上昇を防ぎ登熟を促進させ、白未熟粒の発生を防ぎます。

●中間追肥

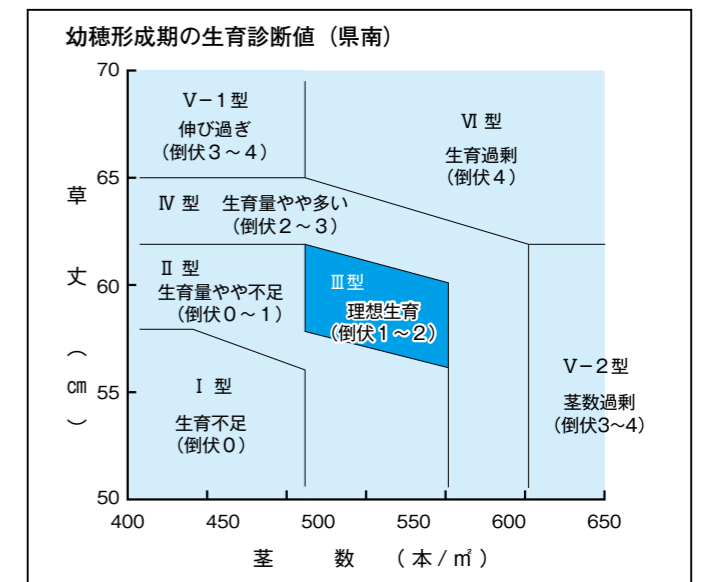
肥料名	施肥量 (kg/10a)	施用時期	備考
おばこロマン大地	20～40kg	6月下旬～幼穂形成期まで	①倒伏抵抗性が高まる ④登熟歩合の向上 ②根の活力向上 ⑤食味の向上 ③有効茎歩合の向上 ⑥病虫害被害の軽減
けい酸加里			
P K 化成 40号			

生育状態を把握し、適切な穂肥を行います。

不安定な天候のなかでも、順調に登熟させるには、生育状況を把握し適切な穂肥を行うことが大切です。幼穂形成期（7月15日頃）に生育・栄養診断を行い、生育状況や気象予報に応じた穂肥の判断をしましょう。

●時期別理想生育量

項目	時期	最高分げつ期	幼穂形成期	減数分裂期
		7月5日	7月15日	7月25日
草丈 (cm)	上限	52	65	75
	理想	48	60	70
	下限	45	55	65
茎数 (本/m²)	上限	580	560	500
	理想	540	520	470
	下限	500	480	420
葉数	理想	9.8	11.0	12.5
		10.5	11.5	13.0
葉色 (SPAD値)	上限	46	44	40
	下限	44	42	38
		42	40	35



●幼穂形成期の草丈 (cm) × 茎数 (本/m²) と幼穂伸長期間の気象予報からの診断

幼穂形成期の生育量	幼穂伸長期間の気象予報別の追肥対応		
	低温・少照・多雨	平年並	高温・多照・少雨
27,000未満	幼形期・減分期 窒素 2kgづつ2回	幼形期・減分期 窒素 2kgづつ2回	幼形期・減分期 窒素 2kgづつ2回
27,000以上 30,000未満	幼形期…ムラ直し 減分期…窒素1.5kg	幼形期・減分期 2回で合計3kg以内	幼形期・減分期 2回で合計3kg以内
30,000以上 34,000未満	幼形期…なし 減分期…ムラ直し	幼形期…ムラ直し 減分期…窒素1.5kg	幼形期…ムラ直し 減分期…窒素1.5kg
34,000以上	なし	なし	なし

※上記表は目安です。詳しくは各営農センターへご相談ください。

●追肥専用肥料

肥料名	施肥量 (kg/10a)	施用時期	備考
おばこロマンみのり	7～13kg	出穂前15日	硫安系 15-4-15 有機20%入り
おばこロマンめぐみ			塩安系 15-4-15 有機20%入り